

<b>過酸化カルシウム粉粒剤</b> <b>カルパー粉粒剤 16</b>	<b>取扱メーカー：</b> 協友アグリ，北興，三井アグロ， 日本化薬，保土谷 <b>原体メーカー：</b> パーオキシサイド
<b>成分：</b> 過酸化カルシウム……………16.0%	<b>性状：</b> 類白色微粒及び粗粉45～150 $\mu$ m <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> —

### 【品目特性】……………

- 本剤を種もみに粉衣しては種すると，土壤中で徐々に酸素を放出し，発芽中の種子に酸素を供給することにより直播水稲の発芽率を向上させ，苗立歩合の安定化に有効である。
- は種機による条播及び背負式動力散粉粒機による散播の両方に使用できる。
- コーティングしたもみは，湛水土壤中直播機では種できる。
- 散播による湛水土壤中直播栽培は，背負式動力散粉散粒機で簡便には種でき，しかも出芽苗立が安定し，本剤のコーティングもみは，は種もみの約3倍も重くなり，田面に散播すると土壤中に埋没するので，転び苗や倒伏が少なく，また条播（機械は種）による湛水土壤中直播栽培に比べて，更に省力・低コスト稲作栽培が可能である。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 本剤は，水分を吸収すると固化して使用できなくなるので，開封後は使い残しのないようにする。
- 粉衣に際しては下記の事項に注意する。
  - 粉衣には浸種した種もみを用い，十分水切りした後に粉衣する。
  - 種もみの浸種では，ゆっくり吸水催芽させ鳩胸程度に止める。芽を切った種もみは粉衣の際に芽を欠損するおそれがあるので使用しない。
  - 種もみを消毒する場合は，本剤の粉衣前に種子消毒剤の所定濃度液に浸漬する。
  - 回転式粉衣処理は攪拌が容易で，薬剤及び水の投与が簡単な容器で行う。種もみを入れ攪拌しながら本剤の所定量の一部を少量投入する。本剤が種もみに付着し，余分な本剤がとび始め

たら噴霧器などで水の噴霧を開始する。水は連続で噴霧しながら，本剤を少量ずつ投入する。粉衣状態を見ながら投入をくりかえす。本剤所定量の少量を残した時点で水の噴霧を止める。水の噴霧を止めた後，この少量残した本剤を投入し3分間攪拌を続ける。

○粉衣処理の際浸漬した種もみの水切りが不十分であったり，一時に水を多量に噴霧すると本剤を投入した時に薬剤や種もみが団子状になり，均一な粉衣ができなくなるので注意する。

○本剤を粉衣した種もみを30分程度ゴザなどにひろげ，陰干しをして薬剤が固まってから網袋に入れる。当日，は種できない場合は，風通しがよく雨水がかからない場所にスノコなどの上にムレないように保存する。また，乾燥しすぎると粉衣の破損が大きくなるので早めには種する。

○使用後の容器などはそのまま放置すると，均一な粉衣ができなくなるので十分清掃しておく。

○専用の回転式粉衣機を使用すると効率的である。

- 本剤を粉衣した種もみを湛水直播水稲栽培で使用する場合は下記の事項に注意する。

○は種する時は，植代かき後の水の濁っている時，又は植代かき後土壌表面が柔らかいうちに，粉衣した種もみが土壌中に埋没するようには種する。

○本剤を乾燥種もみ重量の等倍から2倍量未満で使用する場合には落水出芽法を併用し，発芽苗立を促進するためには種直後から出芽始めまでの間落水し，田を乾かす。北海道を除く全域において本剤を乾燥種もみ重量の2倍量で使用する場合には必ずしも落水出芽法と併用する必要はない。

○空中散播及び無人ヘリコプターによる散播で使用する場合、各散播機種種の基準に従って使用する。

●北海道において乾田直播早期湛水栽培で使用する場合には、北海道の水稲乾田は種早期湛水栽培暫定基準に従う。

●保管については、酸類と隔離する。吸湿すると固結するので、特に湿気に注意。



### 【安全対策上の注意】 .....

●眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

### 【適用と使用法】 .....

作物名	使用目的	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用場所	過酸化カルシウムを含む農薬の総使用回数
直播 水稻	発芽率の向上 苗立歩合の安定	は種前 浸種後	乾燥種もみ 重量の等倍 ～2倍量	1回	湿粉衣 (地上は種用、空 中散播及び無人 ヘリコプターに よる散播用)	全域	1回